

2018年3月5日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 原嶋 洋平

フィリピン国  
マロロスークラーク鉄道事業／南北鉄道事業南線（通勤線）事業  
（協力準備調査（有償））  
スコーピング案に対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2018年2月19日（月）14:00～16:57
- ・場所：JICA 本部（111 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：織田委員、作本委員、林委員、原嶋委員、
- ・議題：フィリピン国マロロスークラーク鉄道事業／南北鉄道事業南線（通勤線）事業（協力準備調査（有償））に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：フィリピン国マロロスークラーク鉄道事業／南北鉄道事業南線（通勤線）事業スコーピング案 事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第88回委員会）

- ・日時：2018年3月5日（月）14:30～17:22
- ・場所：JICA 本部（113 会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体事項**

1. 本事業に先立って、中国輸出入銀行の融資で計画され契約解除されたノースレイルプロジェクトの環境社会配慮における未解決の課題を確認し、これらの解決を実施機関に申し入れること。特にノースレイルプロジェクトにおける住民移転について未解決の紛争等がないか実施機関等に確認し DFR に記載すること。
2. 本事業では全駅が新設となるが、駅舎建設に伴う環境社会影響調査の対象を DFR に記載すること。

### **代替案の検討**

3. 本事業による住民移転は 10,000 世帯、60,000 人が推定されており、これらは全て非正規住民である。これに鑑み、センサス・社会経済調査、移転先の確保、ステークホルダー協議の情報提供と参加の確保、社会的弱者への適切な配慮等、個別の移転住民に対する配慮がなされるよう、留意すること。
4. 本事業の代替案の総合評価において、項目間の比重の置き方を DFR に記載すること。
5. 現時点で、先住民族の指定地域に関する情報が乏しいため、本事業の計画路線が同地域を通過するか確認すること。先住民族指定地域を可能な限り回避する線形案を検討すること。

### **環境配慮**

6. EIA で騒音ベースライン調査を行い、本事業によって騒音が環境基準値を上回ると予測される区間、又は、すでに環境基準を上回っている区間には更なる悪化を防止するため遮音壁設置など低減対策を提言すること。
7. 地震や洪水が発生した場合に備え、可能な限り技術面等でリスク回避に努める旨、DFR に記載すること。

### **社会配慮**

8. センサス・社会経済調査では、世帯主とその他の世帯構成員全員について、基本属性や、主収入源・副収入源の情報や住居からの近接性、土地ベースの職業の区分、給料ベースの職業の場合の雇用契約・職種等、職業技術の有無、脆弱性の有無(妊婦や障害者等)についてヒアリングを行い、ジェンダー平等の視点から、性別集計して DFR に記載すること。

以 上